



YMCA News



2024年10月25日発行
1947年10月27日発行
公益財団法人広島YMCA
〒730-8523
広島市中区八丁堀7-11
Tel 082-228-1151
Fax 082-211-0366
<https://www.hymca.jp/hymcagcc/>
発行人/家守治司
編集人/中奥岳生
印/広島YMCA

日本被団協 2024年10月11日にノーベル平和賞受賞

YMCAと被団協の関係って？

ノルウェーにあるノーベル平和賞の選考委員会は、日本時間の2024年10月11日、今年のノーベル平和賞に日本被団協＝日本原爆被害者団体協議会を選出したという発表がありました。選考委員会は「ヒバクシャとして広島、長崎での草の根運動による核廃絶への努力、また核兵器を再び使用させないための証言活動を続けてきたこと」を授賞の理由としています。YMCAにおいては、1946年に世界YMCA同盟のジョン・R・モット氏が、戦時中の捕虜の救援や植民地における抑圧や人種差別の撤廃など「国境を越えた平和を促進する宗教的兄弟愛の創造への貢献」を理由にノーベル平和賞を受賞しています。

戦後、広島YMCAは被爆者の方に寄り添い多くの活動を共にしてきました。今回のノーベル平和賞受賞のニュースが届きましたので、広島YMCAと被団協の関係について少しまとめてみました。

広島県被団協は広島YMCAの講堂で誕生した。

戦後の広島YMCA活動の基本は復興活動と平和運動でした。1947年に被爆者の体験手記をまとめた「天よりの大いなる声」の発行を進め、GHQのプレスコードにかかり1949年に発行となりましたが、多くの被爆者の生々しい体験を初めて世に示しました。1946年の11月に旧済美小学校の土地を入手し、12月にはオーストラリア軍YMCAのコンセットハット（かまぼこ兵舎）を譲り受け、本格的な広島での活動を開始します。YMCAには多くの青少年や若者が集まるようになり、その中には多くの被爆者の方もおられました。

1952年には旧本館が建設され、広島の地域コミュニティの中心的な存在として、様々な活動が展開されていきました。そういった中に、2017年ノーベル平和賞受賞のICANのサーロー節子さんや現広島県被団協理事長の佐久間邦彦さん、G7で各国首脳に被爆証言を行った小倉桂子さん等の若者もいました。



YMCA OB/OGのサーロー節子さん 佐久間邦彦被団協理事長 小倉桂子さん

当時の広島市は、街の復興やインフラ整備で手いっぱい状況でもあったため、被爆者救済まで手が回らなかったことが実情だったと思います。多くの平和活動は市民を中心とした原爆被害に対する救済運動が中心として行われていきました。そんな社会状況の中、被爆者の救済を国に求めるために多くの市民や団体がつながって、1956年5月27日に広島県原爆被害者団体協議会（被団協）が、広島YMCAの講堂において設立されました。

当時（1955年）、広島YMCAにも通っていた佐々木禎子さんが原爆症で亡くなり、追悼会において「原爆の子の像」の建立運動が始まります。3年の月日を要し1958年5月5日に原爆の子の像が完成し、活動にかかわった青少年達の「折鶴の会」が発足。1960年には、広島市議会で決定されていた原爆ドーム撤去の方針に対し、YMCAの「折



一九五六年五月二十七日 被爆者団体協議会発足 広島YMCAの講堂で広島県原爆

鶴の会」の青少年たちが原爆ドーム保存運動に立ち上がります。1970年代には原爆瓦運動や1980年代初頭には、原爆投下の実写フィルムをアメリカ国立公文書館から買い戻すための10フィート運動など、広島YMCAが事務局となり、被爆者の方々と共に歩んできました。

被団協の方々と直接交流し、行われる活動としては、1979年から市民平和行進を行っています。広島県の2つの被団協と広島県生協連、そしてYMCAが毎年8月4日に全国から広島に向けて平和行進を行ってきた方々とリレーをつなぎ、広島市内の行進を行い、ゴールとして平和記念公園の慰霊碑に献花を行う行事です。広島YMCAにおいては総主事が代表して毎年参加をしています。



毎年8月4日の市民平和行進では、広島YMCAのインターナショナル・ピースセミナーで被爆証言を行ってきた両被団協の箕牧智之理事長・佐久間邦彦理事長とともに慰霊碑献花を行っている。



核兵器禁止条約の推進に大きな役割を果たしたヒバクシャ国際署名

広島YMCAと被団協とのつながりが深くなっていった1つの要因として「ヒバクシャ国際署名」があります。1980年からスタートした広島YMCAユースピースセミナーでは、ヒバクシャ証言を行っていましたが、被団協という団体というよりもむしろ広島YMCAの会員であった被爆者の方々と個々につながっていたことが大きかったと感じています。

それは、かつての総主事と被爆者との人間関係によるところが大きかったと思います。2012年、広島YMCAが公益財団化され、2013年の75周年に出された「原点回帰」の広島YMCA方針において、過去につながるのあった団体と関係修復がなされていきました。それ以前にも2011年の東日本大震災によって、広島NPOが復興支援を通して強くつながっていったことも関係していると思います。

また、その年には市民平和行進を行っていた団体（被団協・生協・YMCA等）が主催者となって【「戦争も核兵器もない平和な社会を」広島集会】も開催されるようになり、被団協との関係はより強いものとなっていきました。

核兵器禁止条約の策定が国連で始まり、日本被団協はその後押しを行うために「ヒバクシャ国際署名」をはじめることとなります。ICAN国際運営委員の川崎哲氏から広島YMCAスタッフに1つの連絡が入りました。「日本において核兵器禁止条約推進のためヒバクシャ国際署名がはじまるので広島YMCAにサポートをお願いしたい」というものでした。ICAN川崎氏からの依頼を受け、国際コミュニティーセンター（以後GCC）では、広島県ヒバクシャ国際署名事務局立ち上げのための準備を行い、2017年6月17日、広島YMCAコンベンションホールにて発会のためのイベントを行いました。

公益財団法人広島YMCAは、公益財団法人広島平和文化センターの理事でもあるため、当時平和文化センターの理事長であった小溝泰義理事長や広島YMCA常議員のスティーン・リーパー氏等の記念公演を行ないつつ、個々で署名活動などをしてきた被爆者の7団体の方々と、「ヒバクシャ国際署名」を通して1つにまとめあげていくという意図もあり企画を行いました。また、被爆者の方々の活動を継承していくために広島のNPO活動を行う多くの若者や広島YMCA国際コースリーダーたちがこの発会のためのイベントを運営しました。

その後、広島県ヒバクシャ国際署名推進連絡会が立ち上がり、被爆者7団体・広島県生協連・広島YMCAが事務局となり、2か月に1度の街頭署名活動や地方公共団体や協力団体への署名用紙の配布等が2021年3月末まで行われました。広島YMCAは、推進連絡会の定期的なミーティングや署名集め、2か月に1度行われる街頭署名活動の実施と記録の撮影、WEBサイトを通しての情報提供の役割を担いました。実質2017年から2021年までの4年間の活動で、最終的に13,702,345筆（広島では838,839筆）の署名が集まることとなりました。この署名は、広島県被団協理事長の箕牧智之氏と日本被団協事務局次長の和田征子氏によって、核兵器禁止条約の国連交渉会議で議長を務めたエレン・ホワイト議長（コスタリカ）に届けられ、核兵器禁止条約制定の後押しとして大きな役割を果たしました。

核兵器禁止条約の前文には「核兵器の使用による犠牲者（ヒバクシャ）ならびに核兵器の実験による被害者にもたらされた受け入れがたい苦痛と被害を心に留める。」という文章が加えられ、「ヒバクシャ」という文字が国際法に初めて加えられ、この条約に「ヒバクシャ国際署名」が大きな役割を果たしたことを意味しています。

被爆者の方々も高齢化が進む中、いかにこの被爆体験を継承していくかが大きな課題となっています。広島YMCAでは今後も多くの活動を通して被爆者の方々の思いを若者に伝えていくようにしたいと考えています。



被爆者7団体と小溝理事長（右端） スティーンリーパー氏（後列中央）



ヒバクシャ国際署名を支えたNPOの若者や広島YMCA国際コースリーダー

広島YMCAインターナショナル・チャリティーラン 2024/11/23

インターナショナル・チャリティーランは1995年10月14日に第1回大会が、広島市中央公園にて開催されました。2020年からは、新型コロナウイルス感染症の影響やスタジアム建設のため中央公園での開催ができませんでした。2024年8月に中央公園がサッカースタジアムの隣に「ひろしまスタジアムパーク」としてオープンし、大きな芝生ひろばや川沿いの水辺ひろば、商業施設など広島市の新しいランドマークとして市民の憩いの場となっています。

その「ひろしまスタジアムパーク」でインターナショナル・チャリティーランを5年ぶりに開催いたします。皆様是非ご参加ください。

インターナショナル・チャリティーラン大会要項

- 日 程：2024年11月23日（土・祝）小雨決行
- 時 間：10:00～12:00（予定）
- 受 付：9:30～ ランスタート10:00～
- 場 所：ひろしまスタジアムパーク現地集合・解散
- 参加費：大人：3,000円 学生：1,500円
中・高生：1,000円 小学生以下：500円
ファミリー参加：5,000円（家族5名まで）



詳細はホームページへ



第1回大会の委員長はチャック・ウイルソン氏

